



『ゆめここ通信』の趣旨

「ゆめここ通信」は、年数回発行します。本校のホームページを通して地域の方々へ特別支援教育についての情報発信や、校内の先生方へ向けに情報提供を行っていきます。本校の実践事例や教材等の活用方法、自立活動、合理的配慮、福祉サービス等々、地域支援センターで取り扱っていく内容を中心にまとめていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

自立活動とICT活用の関連性



本校の学校経営・運営ビジョンやGIGAスクール構想委員会において、ICT活用の充実が示されました。また、『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告 令和3年1月』においても、「ICT利活用等による特別支援教育の質の向上」が示されており、今後ますますICTの利活用が求められています。これらを踏まえ、今回のゆめここ通信では、ICTの活用と自立活動との関連性について整理しました。ICTを活用した授業作りを行うにあたって参考にさせていただければと思います。

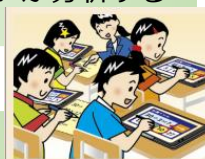
『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告』 『IV ICTによる利活用等による特別支援教育の質の向上』より

1 特別支援教育におけるICT利活用の意義と基本的な考え方

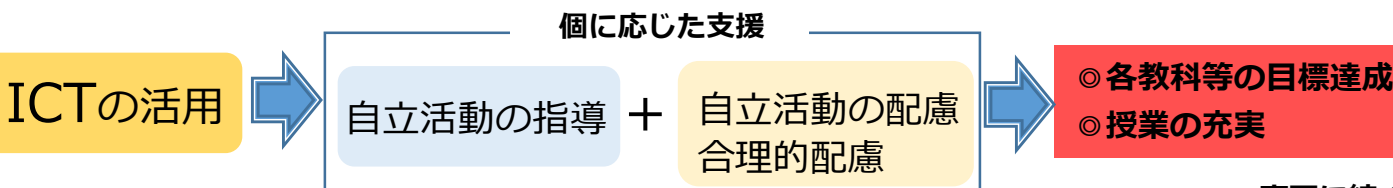
- ICTは、障害の有無を問わず、子供が主体的に学ぶために有用なものであるとともに、特別な支援を必要とする子供に対しては、その障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて活用することにより、**各教科等の学習の効果を高めたり、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導に効果を発揮したり**することができる重要なものである。また、**合理的配慮を提供するに当たっても必要不可欠なもの**となりつつある。
- 各教科の指導においては、単にICTを使用することを目的とした授業作りではなく**各教科等の目標の達成を図るために必要な手段**として、どのようにICTを関連付けて活用すればよいか分析する力を培っていくことが重要である。

2 ICT活用による指導の充実と教師の情報活用能力

- 指導内容や指導方法の充実の観点からは、ICTは、例えば、**タブレットを使った授業などで、自分の考えをタブレットに書いて自らの意見を視覚的に表現しやすくなるなど、集団学習における個に応じた支援に生かすことができる。**～～中略～～
こうした活用の前提として、子供たち一人一人の障害の状態等や育成を目指す資質・能力、学習の習得状況等と照らし合わせながら、**どのようにICTを活用した授業を実践していくことが適切なのか、ICTを活用した授業の在り方を引き続き検討していく必要がある。**



- ◎ これらの視点を踏まえると、ICTの活用は、**自立活動の指導**や各教科の目標を達成するための**自立活動の配慮の視点**、さらには**合理的配慮**につながるものであると言えます。ICTを活用することで、児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための指導や配慮につなげていくことができるようにしていくことが大切になってきます。



ICTを活用した具体的な支援の例

「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」より

デジタル教科書の活用

文字の拡大や音声読み上げ

筆談アプリの活用

音声を文字化するソフトの活用

動画やアニメーション機能を活用した
学習内容を具体的にイメージする情報提示



教室と別室を結ぶ遠隔教育のシステム

書字や読字が難しい人にとっての
コンピュータを用いた出入力や音声読み上げ

視線入力装置による表現活動の広がりや
コミュニケーションの代替

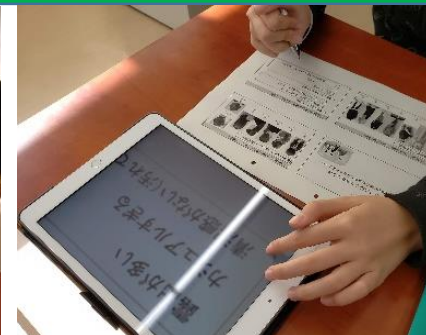
本校の授業におけるICT活用と自立活動の視点を踏まえた配慮

アプリ「Jamboard」を使用して、自分の意見を入力し、周りの生徒と意見を共有している姿



☆ 選択性緘黙で音声言語での意思の表出が困難な生徒が、アプリ「Jamboard」を使用して自分の考えを入力して、タイムリーに自分の意見を表出することで、周りの生徒と意見を共有することができた。

板書を書き写すことが苦手な生徒が、タブレットの写真機能を利用して書き写している姿



☆ 板書事項を書き写すことが苦手な生徒に対して、タブレットで板書事項を写真で撮り手元におくことで、タブレットの画像を見ながら、適切にプリントに書き写すことができた。

なぞり書きのアプリを使用し、視覚情報を活用して書き順を意識しながらなぞり書きに取り組んでいる姿



☆ 視覚情報を優位に取り入れることができる児童に対して、なぞり書きのアプリを使用することで、アプリの書き順に沿いながら手元によく見て、書き順を意識して丁寧になぞり書きに取り組むことができた。

これらの事例のように、**自立活動の視点を踏まえた配慮（合理的配慮）**を意識してICTを活用することで、各授業の目標達成や児童生徒一人一人の充実した授業につながります。

さらに、ICTの活用が学習上または生活上の困難さの改善・克服に有効であると、児童生徒自身が気付くことで、自分からICTを活用しようとする意欲にもつながっていきます。

